

修士論文（要旨）

2025年1月

<と思う>に関する日中対照研究
ーテレビドラマの話し言葉を対象にー

指導 茶谷 恭代 准教授

国際学術研究科

国際学術専攻

グローバルコミュニケーション実践研究学位プログラム

223J1007

DENG PEIXIN

Master's Thesis (Abstract)

January 2025

A Comparative Study of “TO OMOU” in Japanese and Chinese:
A Focus on Spoken Language in TV Dramas

DENG PEIXIN

223J1007

Master of Arts Program in Global Communication

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: CHATANI Yasuyo

目次

第1章 研究背景と目的	1
第2章 先行研究	3
2.1 日本語学における<と思う>に関する研究	3
2.1.1 一人称スル形の<と思う>に関する研究	3
2.1.2 <と思う>のバリエーションに関する研究	5
2.2 中国語学における思考動詞に関する研究	8
2.3 対照言語学における<と思う>に関する研究	9
2.4 先行研究の問題点と本研究の位置付け	11
第3章 調査方法と研究課題	12
第4章 「思う」の使用実態の考察	14
4.1 <と思う>の考察	14
4.2 <と思った>の考察	17
4.3 <思っている>と<思っていた>の考察	18
4.4 <と思う>否定形の考察	19
4.5 <思える／思えない>の考察	20
4.6 <思っ>の考察	21
4.7 <思うと／思えば／思ったら>の考察	22
4.8 「思う」の使用実態のまとめ	23
第5章 「思う」の日中対照考察	25
5.1 <と思う>の日中対照考察	25
5.2 <思った>の日中対照考察	27
5.3 <思っている>と<思っていた>の日中対照考察	30
5.4 <と思う>否定形の日中対照考察	31
5.5 <思える／思えない>の日中対照考察	31
5.6 <思っ>の日中対照考察	32
5.7 <思うと／思えば／思ったら>の日中対照考察	33
5.8 「思う」の日中対照のまとめ	33
第6章 まとめと今後の課題	35

参考文献

使用教材・データ・ウェブサイト

要旨

日常生活において、話し手の考えや意見を相手に伝える際に<と思う>という文法項目はよく使われており、日本語教育現場でも重要な文法として初級で導入されている。しかし、中国語を母語とする学習者が上級になっても、<と思う>の習得が全体的に困難であることが指摘されている（林 2007、田中 2015、布施・鈴木 2021 など）。

中国の教育現場では、教師も教科書の解説でもよく<と思う>の意味を中国語の<想・觉得・认为>に置き換えて説明する。しかしながら、日本語の<と思う>は完全に中国語の<想・觉得・认为>に言い換えられるわけではないため、<と思う>の不使用や過剰使用の問題が出る可能性が高いと予想される。

従来 of 対照研究では、一人称のスル形の<と思う>のみ考察されているが、<と思った>や<と思っている>など、テンス・アスペクトによって生じる違いについて、考察されていない。また、書きことばのコーパスに基づいて考察したが、<と思う>は会話においてもよく用いられるため、話しことばにおける使用実態の分析も必要である。

本研究は<と思う>の会話データを対象に日本語母語話者の使用実態を調査し、日中がどのように対応しているかを明らかにし、その対応関係を教育現場に生かすことを目指すものである。

まず、一人称スル形の<と思う>については、王（2021）の分類を参考に、「中立的判断型」、「回想型」、「蓋然性判断型」、「評価型」、「意志希望型」、「遂行報告型」の用法に分類した。分析の結果、多くの点で王（2021）の指摘を支持する一方で、「回想型」や「評価型」、「意志希望型」の構文および対応関係において相違が認められた。「中立的判断型」は[(名詞/動詞述語文)節+と思う]という構文で、中国語訳では<想・觉得・认为>のいずれかを用いる。「回想型」は[(たしか〜)名詞だった+と思う]という構文で、中国語訳では<想>や「记得」を用いるが<觉得・认为>を用いない。「蓋然性判断型」は[(蓋然性のモダリティ形式)節+と思う]という構文で、中国語訳では<或许・应该・可能>のような推量や可能性を表す副詞が現れている。逆に、<想・觉得・认为>が推量や可能性を表す副詞と共に用いられると、文が冗長になってしまう。「評価型」は[(評価性の形容詞・評価のモダリティ形式など)節+と思う]という構文で、無翻訳が多い。「意志希望型」は[意志動詞+よう/たいと思う]という構文で、中国語訳では<想>や「要」、「打算」を用いる。「遂行報告型」は[意志動詞+たいと思う]という構文で、通常中国語訳では反映されない。さらに、スル形以外の実例についても検討を行い、<思った>の「コメント型」では、話し手の見込みと事実が一致すれば、中国語の「就知道」や「就说」と対応するのは特徴である。一致しない場合は、<思った>と<思っていた>には、中国語の<以为>が対応して用いられること、また、「没想到」は<思わなかった>や<思っていなかった>に対応しており、「不会想到」は<思わない>や<思えない>に対応していることが観察された。

キーワード：<と思う>、談話、日中対照、言語構造

参考文献

- 庵功雄・宮部真由美・永谷直子（2014）「複数のコーパスを用いた新しい文法シラバス策定の試み」『コーパス日本語学ワークショップ予稿集』6:31-40.
- 李鳳（2014）「『思う』と『생각하다(sayngkakhata)』の日韓対照研究—ヘッジとポライトネスの観点から—」北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士学位論文
- 小野正樹（2001）「『ト思う』の談話機能—話し方の教育への提案—」『日本語教育方法研究会誌』6:54-55.
- 王会欣（2021）「認識動詞『思う』という構文パターンと対応する中国語訳」『名古屋大学人文学フォーラム』4:61-76.
- 大瀧幸子（1987）「中国語知覚・思考動詞の意味記述：「覺得，看，以為，認為，想」」『中国語学』234:54-64.
- 高橋美保（2019）「『ト思う』の用法に関する記述的研究—推量用法と記憶再生用法—」『日本言語文化』47:30-50.
- 田中舞（2015）「ICLEAJ作文コーパスβ版における日本語母語話者と中国人・韓国人日本語学習者による『思う』の使用状況について」『同志社大学日本語・日本文化研究』13:133-147.
- 日本語記述文法研究会編（2003）「第8部:モダリティ」『現代日本語文法4』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編（2007）「第5部:アスペクト」『現代日本語文法6』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編（2008）「第6部:複文」『現代日本語文法6』くろしお出版
- 宮崎和人（1991）「モダリティ論から見た『～と思う』」『待兼山論叢. 日本学篇』33:1-16.
- 宮崎和人（2001）「動詞『思う』のモーダルな用法について」『現代日本語研究』8:111-136.
- 布施悠子・鈴木靖代（2021）「対話場面における中国語話者の「と思う」の習得過程の一考察 —『北京日本語学習者縦断コーパス(B-JAS)』のデータから—」『国立国語研究所論集』20:95-113.
- 彭国躍（2012）「中国語モダリティの機能体系—Palmerモデル適用の試み—」『モダリティと言語教育』ひつじ書房 63-80.
- 森山卓郎（1992）「文末思考動詞『思う』をめぐる一文の意味としての主観性・客観性—」『日本語学』11(9):105-116.
- 林佩怡（2007）「中国語母語話者による『ト思う』の習得研究」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』2:97-111.
- 山岡政紀（2011）「『トと思う』構文の発話機能に関する対照研究（第3部 機能シラバス作成のための発話機能の日中対照研究）」『日本語コミュニケーション研究論集』1:93-102

使用教材・データ・ウェブサイト

『みんなの日本語 初級1 本冊 第2版』（スリーエーネットワーク（編著），スリーエーネットワーク，2012年）

『みんなの日本語 初級1 翻訳・文法解説 中国語版 第2版』（スリーエーネットワーク（編著），スリーエーネットワーク，2012年）

『新編日本語（重排版） 第一冊』（周平、陳小芬（編著），上海外語教育出版社，2016年）

『新版中日交流標準日本語 初級下』（人民教育出版社，2005年）

中国動画配信サイトのビリビリ <https://www.bilibili.com/bangumi/media/md125772>
(2024年6月18日閲覧)

ウィキペディア(2024)逃げるは恥だが役に立つ (テレビドラマ) [https://ja.wikipedia.org/wiki/逃げるは恥だが役に立つ_\(テレビドラマ\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/逃げるは恥だが役に立つ_(テレビドラマ)) (2024年12月18日閲覧)